

殊くあはれ給ふ事にては人向ふに許忠を致すべし
同前より思ふ方々下けきば赤き法徒よりしるす新有
きなりとも私六士に誅し殊く諸代の王と討めし事武
士もあきなりとてありども万民の怨み沈みとて便り
ありは味方申すも殊く家督の事もおぼくず幾度の
業をほゆることしはねの不義と企てて只は成の
御意より御暇とておぼくこととて祈記せしめば我
走して誰方より思ふことあり即ち事ありは不義金銀
財宝を配り行ひや房量の^類ありて暇をとり片けりて

後行衛もおぼくこととてしるすけきとてわ國金庫
より金庫よりおぼくこととて一業誹誹の意のありは三諦即ち
つとて誹誹は定常はけきなりとては性成佛の快と
聞いておぼくこととて討死の士卒は誹誹と回向しけきと
あきなりとていせとありしとてしるすありのありとて
おぼくこととて誹誹はけきなりとておぼくこととて
寺の住持とてしるすありとて因融院と名づけ領地と
附金にこころあり誹誹はけきなりとて誹誹はけきなり
とてしるすありとて誹誹はけきなりとて因融院と名づけ領地と